



活動報告



グリーンアジア国際戦略プログラム キックオフシンポジウム報告—漫談風—

副プログラムコーディネーター

谷本 潤

10月に採択の内示を受け、第1期コース生受け入れ、学内組織規約等の整備を経て、12月に正式発足となった本プログラムの内外への披露のセレモニーは図らずも二段構成になった。“図らずも”などともって回った言い方をしたのは、プロジェクトの開始以降、何事もバタバタどたばたの連続で、およそ組織的な運営とはほど遠い状況があつて、デザイナーでありスキッパーであらねばならぬ我らとてうまいこと制御できずに、結果的にそうってしまったからなのである。初期カオスと云う意味では未だにそうだから誠に遺憾である。これ自省の弁である。のっけから弁疎縷述の態である。

さて、その二段階だが、一発目は1月10日(木)のグリーンアジア国際リーダー教育センター開所式であり、寒風吹きすさぶ中、有川総長の来臨を賜り、筑紫キャンパス総理工棟前で、学内関係者の参会を得、しめやかに、否々、こじんまりと行われた。で、二の矢が表記の「グリーンアジア国際戦略プログラム」キックオフ会議である。新年会シーズンで場所が取れない、取れたところがパツとしないなど様々迷走があつたのだが、なんとか1月25日(金)に博多駅直上のJR九州ホールで開催の運びとなった。招待の段取り、事前アドなど準備十全宜しきを得て、こちらはそれなりに賑々(にぎにぎ)しく行われた。自画自賛だが満足ゆくのだったと思う。が、次第の段取りから何から、総責任者の私はいわば子供の遣いで、影のオーガナイザーは先導研所長の永島英夫教授であったことをここで自状する。G-COEでの経験が豊富な先生は、特別講演の人選やら何から事々に馴れぬ私を訓導下さった。彼の助力を大いに多として、この場でまずは衷心からの謝意を表したいと思う。細かいスポット企画やら会場選びもそうだが先生の諸々のこだわりにマジかよ、と思うた刹那もあつたけれど…。

私たち主催側用にデフォルメしたやや詳細な式次第を表に掲げておく。

午前中は「グリーンアジアを創造する」と銘打って一般向け公開講演会とした。そのココロは、グリーンアジアを標榜する上で、まずアジアの中の日本の現状を理解し、その特殊さ—他との共通性、異質さ—同質さをひっくり返して立ち位置を正しく知る要があるとの発想である。田中俊六先生には、原発、新エネルギー、再生可能エネルギーを含め、日本のエネルギーシステム、現下のエネルギー供給の問題点を概説頂いた。後小路雅弘先生には、東南アジアの現代美術を100年程度にわたって俯瞰的に照射した上で、地域の多様性について分かり易く解説頂いた。

午後は本題のキックオフである。冒頭、主催側を代表して中島英治総理工研究院長、有川節夫九大総長からの挨拶に引き続き、



池田貴城文科省高等教育局大学振興課長、服部誠太郎福岡県副知事、Uraivan KHUHAPREMA在大阪タイ王国副総領事、Nguyen Viet DUC在福岡ベトナム社会主義共和国副領事からご祝辞を賜った(池田課長とViet DUC副領事祝辞はメッセージ代読)。その後、本プログラムコーディネータの原田明教授、副コーディネータの林潤一郎教授より、「グリーンアジア国際戦略プログラム」の委細枠組みが説明された。休憩を挟んで、後半は、遠路はるばる来駕頂いた6つの海外コア連携先の方々から、本プログラムに期待する点についてスピーチを賜った。最後は、プログラムを分担する教授陣から、自身の研究に触れつつ本プログラムに対する意気込みを語って貰った。

会場には同時通訳を入れた。この手のセレモニーとしては穏当なコンテンツで、雰囲気もそれなりだったろうと自賛している。が、最後に敢えて難を言おう。自分で仕込んでいながら誠につかぬ事を謂うけれど、招待講演や賜る祝辞は兎も角、講義も英語化するプログラムであり冠にも「国際戦略」を高らかに謳うのであれば、少なくとも手前ども側は英語による発信をすべきだったのではないかと思っている。海外から招待した連携先の先生や学生たちは、どう感じたろうか。やっぱり日本は遠い国だと思われなかったか… E.O.ライシャワーは日本を「口の縫れた巨人」(経済的存在感をしてgiantと言わしめたのだろう)と評していた。今後、その真価が問われると思うている。





「グリーンアジア国際戦略プログラム」キックオフ会議式次第

日時：平成 25 年 1 月 25 日（金） 場所：JR 九州ホール

午前の部：公開講演会「グリーンなアジアを創造する」

- | | | |
|---------------|---------------------|-------------------------------|
| 10:00 ~ 10:05 | 趣旨説明 | 谷本 潤（プログラム副コーディネーター／総理工副研究院長） |
| 10:05 ~ 10:55 | 再生可能エネルギーは日本を救えるか？ | 田中 俊六（東海大学名誉教授／元 東海大学学長） |
| 11:05 ~ 12:00 | 現代美術から見る東南アジアの文化と社会 | 後小路 雅弘（九州大学人文科学研究院教授） |

(12:00 ~ 13:00 昼食会)

午後の部：キックオフ会議

- | | |
|---------------|---|
| 13:00 ~ 13:40 | 開会の辞・来賓挨拶
挨拶および経緯説明：
中島 英治（プログラム責任者／総理工研究院長・学府長）
九州大学総長より挨拶：有川節夫（九州大学総長）
祝辞 #1 文部科学省：
池田 貴城 氏（高等教育局大学振興課長）
祝辞 #2 自治体 VIP：
服部 誠太郎 氏（福岡県副知事）
祝辞 #3 海外 VIP：
Ms. Uraivan KHUHAPREMA（在大阪タイ王国副総領事）
祝辞 #4 海外 VIP：
Mr. Nguyen Viet DUC（在福岡ベトナム社会主義共和国副領事） |
| 13:40 ~ 14:30 | グリーンアジア国際戦略プログラムとは何か？
原田 明（プログラムコーディネーター／総理工学府長）
林 潤一郎（プログラム副コーディネーター／総理工学府教授） |
| (休憩) | |
| 14:45 ~ 15:45 | グリーンアジア国際戦略がめざすもの
～アジアからの来賓スピーチ・大学紹介と日本との連携への期待～
Prof. Md. Sekul Islam & Prof. Shahida Rafique
(University of Dhaka, バングラディッシュ)
Prof. Ranamuriy. Nagarajan & Prof. Nilesh J. Vasa
(Indian Institute of Technology Madras, インド)
Prof. Rudy Sayoga Gautama (Institute of Technology Bandung, インドネシア)
Prof. Megat Johari Megat Mohd Noor
(Malaysia-Japan International Institute of Technology, マレーシア)
Prof. Kim Choon Ng (National University of Singapore, シンガポール)
Prof. Taweechai Amornsakchai (Mahidol University, タイ) |
| 15:45 ~ 17:00 | 先端研究と大学院教育との現場から——研究室からの先端研究紹介、産学連携研究と産学連携人材育成、アジアでの連携研究など——
永島 英夫 教授（大学院総合理工学府・物質理工学専攻／先端物質科学研究所・所長）
寺岡 靖剛 教授（大学院総合理工学府・物質理工学専攻）
小山 繁 教授（大学院総合理工学府・環境エネルギー工学専攻）
笹木 圭子 教授（プログラム副コーディネーター／大学院工学府・地球資源システム工学専攻）
浜本 貴一 教授（大学院総合理工学府・量子プロセス理工学専攻） |
| 17:00 | 閉会 |
| 17:00 ~ 18:00 | 軽食による懇親会 |